

外来担当ソーシャルワーカーです。

医療連携・患者支援センター ソーシャルワーカー 野口 聰美

現在当院では、外来担当としてソーシャルワーカー3名が勤務しております。患者さんが直接ソーシャルワーカーの部屋へ来室する場合もあれば、外来診察中の医師から連絡をいただきソーシャルワーカーが各診療科外来へ伺うこともあります。

外来担当ソーシャルワーカーの役割は、下記のとおりです。

外来担当ソーシャルワーカーの役割

コンシェルジュ窓口	治療や通院に関連した相談
コンシェルジュ担当看護師と一緒に患者さんの「何かを受診したらいいか」との質問や相談に応じています。	医療費や介護保険、身体障害者手帳など様々な制度・社会福祉サービスなど社会資源の紹介をしています。また、処方箋の有効期限が過ぎてしまった・予約の日に受診できなかったなど受診に関連した相談に応じています。
かかりつけ医の相談	
当院の担当医より病状が安定した患者さんに対してかかりつけ医をもつことを勧められた際に、どのような医療機関をかかりつけ医とするのか、患者さんやご家族と一緒に考えていきます。	

当院に通う皆様方の家庭での生活と当院での治療とがスムーズに進められるようお手伝いしています。困り事や不安な事がありましたら、お気軽にご相談下さい。

外来受診のご案内

- 開院時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:00
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日・祝日・第3土曜／創立記念日(6月10日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ず持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。
- 当院は厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院・大学付属病院です。臨床研修医および医学生・薬学生・看護学生のほか、医療関係各種学生・研修生の教育実習・研修が行なわれております。実習・研修は指導医・指導薬剤師・指導看護師や各職種指導者の監督のもとで行なわれますので、ご協力をお願い申し上げます。

編集後記

平成最後の新年が明けました。

昭和64年1月7日、昭和という時代の終わりは昭和天皇の崩御でした。崩御を前提に事前手続きを行うことはならぬため崩御当日に正式な手続きに入り、改元にあたって政府は大忙だったことが後に報道されました。翌1月8日14時36分、当時の内閣官房長官の小渕恵三氏が「新しい元号は『平成』であります」と記者発表で提示したあの文字は記者会見のほんの20分ほど前に墨書きしたそうです。今年5月1日、新元号がどのような形で発表されるのか、その歴史的瞬間を目にすることになるのが楽しみでもあります。

「平成」の時「修文」「正化」が候補にあがつたそうですが新元号はいかになりますか。

いずれにしろ新しい時代の始まりが平和であることを願うばかりです。

(看護部 京谷 みよ子)



編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)
発行月：2019年1月【年4回（1・4・7・10月）発行】
URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

SAKURAdayori



東邦大学医療センター
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

新年のご挨拶

東邦大学医療センター佐倉病院 病院長 長尾 建樹



皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。近年の大きな医療変革の中にあって、すべての医療機関が厳しい状況に直面しておりますが、当院は将来にわたり高度急性期病院として地域貢献を続けられる「タフな病院」を目指して教職員一丸となり、地道にそして確実に発展していくための努力を続けてまいいる所存です。

以前からの重要課題である医療連携強化のため医療連携・患者支援センターの人員を補強し、事務系職員や医師看護師だけでなく、薬剤師、栄養士、理学療法士、メディカルソーシャルワーカーを含む多職種協働による入院前から急性期治療終了までの患者支援はもとより、回復期や療養型病院へのスムーズな移行、介護施設及び在宅診療への切れ目のない展開など個々の患者さんに適したテイラーメイドな医療支援の提供体制と整えてまいりました。これからも地域で完結できる医療体制の整備を継続してまいります。

診療面においては縮小していた乳腺内分泌外科分野に新たな人材を迎えることができ、後進の育成を含めた今後の発展を期待しているところです。その他の診療各科においても引き続き専門性の高い医療を提供し多く

の研究成果が上がるよう環境整備を継続してまいります。また、地域災害拠点病院として災害派遣医療チーム(DMAT)を増員し、多数の傷病者の迅速な受け入れと各地から集まってきたDMATによる診療が展開できる院内体制を構築し、災害に対する総合訓練を市内の基幹病院だけでなく行政機関と合同で開始することができました。今後も被災住民に対する支援強化のために官民一体の協力体制を作り上げてまいります。

教育面においては指導医の高いモチベーションが活気あふれる診療の場を形成し、当院で専門医を目指す専攻医は増加傾向にあり、今後、救急を含めた層の厚い診療体制が期待できます。

大自然に囲まれた佐倉の地で、生命の尊厳を忘れずに人として地域社会に貢献するため、東邦大学建学の精神である「自然・生命・人間」を礎として、思いやりと希望に満ちた職場を築き上げ、高齢化そして人口減少社会の中にもあっても、地域の皆様に常に高度医療が提供できる病院を目指してまいります。今後とも、変わらぬご支援・ご理解をお願い申し上げる次第です。最後になりましたが、この新しい年が皆様にとりましてより佳き年になるよう心より祈念いたしまして 新年の挨拶とさせていただきます。

2018年公開講座「ここまで進んだ! 消化器疾患の最新治療」を開催しました

消化器内科 松岡 克善



松岡 克善 教授

2018年11月24日土曜日に「ここまで進んだ! 消化器疾患の最新治療」をテーマに佐倉病院公開講座を開催いたしました。当日は好天に恵まれた三連休の中日にも関わらず、多くの方にお集まりいただき、消化器疾患への関心の高さを感じました。

消化器疾患の診断と治療は近年で大きく変わりました。胃がん・胃潰瘍の原因としてピロリ菌が発見され、ピロリ菌の除菌によって胃がんの発生率を下げる事ができるようになりました。また、C型肝炎ウイルスに対しても経口薬を8-12週間内服するだけでほぼ100%駆除できるようになりました。内視鏡治療の進歩も著しく、総胆管結石や総胆管の閉塞に対して内視鏡的な治療アプローチができるようになってきています。また、炎症性腸疾患については患者数が急増し、様々な治療薬が登場してきています。多くの方にとっておなじみである便秘についても、江戸時代から変わっていないと言われた治療法が、ここ2-3年で様々な薬が発売になりました。

このような消化器疾患の治療の進歩について、岩佐亮太医師が「ピロリ菌感染と早期胃がん」、佐々木大樹医師が「胆嚢疾患に対する内視鏡治療」、高田伸夫医師が「C型慢性肝炎」、私が「炎症性腸疾患」、竹内健医師が「便秘」と題し

てご説明いたしました。

消化器疾患は身近な病気が多いためか、各講演の後にはたくさんの質問があり、また会が終わっても、質問のための行例ができるほどでした。今回の公開講座を通して、消化器疾患の治療の進歩を感じただけたのではないかと思います。

佐倉病院消化器内科には若い医師が多く、みんなやる気に満ち溢れています。安心・安全な医療を提供できるように頑張っております。地域の方々のお腹のことは佐倉病院消化器内科にお任せください。



当日の会場の様子

2018年 公開講座のお知らせ (入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
1月26日(土) 13:00~15:00	骨粗鬆症について	〈整形外科〉 中川 晃一 他
2月23日(土) 13:00~15:00	がんと暮らし・仕事	〈産業精神保健・職場復帰支援センター／看護部 他〉 小山 文彦 他
3月23日(土) 13:00~16:00	〈地域で考えるケアと治療〉 歩行障害	〈脳神経内科・メンタルヘルスクリニック・ 脳神経外科・リハビリテーション部・ ソーシャルワーカー・看護部 他〉
4月13日(土) 13:00~15:00	災害医療について	〈東邦佐倉DMAT〉 長尾 建樹 他
5月	調整中	

ご参加お待ち致しております

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと存じます。

講演テーマなどの詳細につきましては、院内掲示およびホームページなどでご案内致します。ご不明な点や講演テーマのご要望などございましたら、総務課にご連絡下さい。

『学びの場としての東邦大学～超音波ハンズオンセミナーの開催～』

循環器内科／臨床生理機能検査部 清水 一寛



窄の意味から実際の手術まで詳しく教えていただき、その後当院丹治技師、金技師、田端技師、佐々木技師、守永技師が5台の超音波装置を用い、実技指導にあたりました。日々の診療が終わられてからの参加になりますが、佐倉市だけでなく、千葉市、四街道市、富里市、成田市、八街市、匝瑳市、八千代市、習志野市、船橋市など広くから多くの医療従事者(医師・検査技師)の方にご参加をいただきました。

地域の基幹病院として、近隣の医療機関と自己研鑽に励んでまいりますので、いざというときには、安心して東邦大学医療センター佐倉病院を受診していただければと存じます。



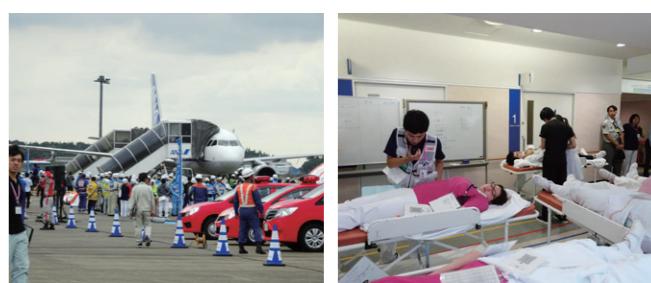
佐倉病院における災害医療の取り組み

外科 門屋 健吾



でも今回近隣病院と合同で行った訓練は今後に繋がっていきますし、回数を重ね、さらなる精度の向上ができますと考えております。

成田空港では毎年飛行機事故を想定した訓練が行われております。印旛医療圏の各病院はもちろんのこと医師会の先生方に加え、空港警備隊、警察、消防、自衛隊といった他職種の方々との合同訓練です。訓練内容として救護所活動はもちろんのことですが、各組織間における必要な情報のスムーズな伝達がなにより重要になります。災害そのものが来ないに越したことはありませんが、いざ災害に遭った場合に、皆様の期待にそろ働きができるよう、平時より充分に備えられていければと考えております。



大阪北部地震後、ニュース等でいよいよ東京湾。。。と騒がれている中での院内訓練開催であり、多数の病職員の協力を得ながら、また今回は初の近隣3施設、聖隸佐倉市民病院、佐倉中央病院、佐倉整形外科病院との合同訓練となりました。

多数の模擬患者を運び入れ、入口で重症度毎に4つに分け、多職種間で互いに協力し、各ブースで救護活動を行いました。

実際に東京湾北部地震が起きた場合に、佐倉地域は地盤が強く甚大な被害になる可能性は低いと予想されていますが、浦安、稻毛といった沿岸地域からの搬送を災害拠点病院として受け入れる必要があります。近隣の災害医療の総本山である日本医科大学千葉北総病院との密な連携はもちろんのこと、近隣の2次、1次医療圏との連携といった点